

## 平成20年4月18日(金) 第4回海岸懇談会 議事録

場 所 : 佐土原支所内会議室

配布資料: 第3回委員会資料3-3、3-4。

第3回委員会議事録

【意見・質問】 参→参加者 国→当方回答

参 : 委員の経歴は?地元代表はどの方か。

国 : 住吉地区自治会長の山内氏。二ツ立地区地区自治会長の高木氏は今回欠席。

参 : 2006、2007の試験養浜の実施主体は?

国 : 石崎浜北工区は別箇所が発生した土砂を国が運搬して養浜。当該箇所の改良(押土)と南工区は宮崎県で実施。住吉海岸海中養浜は宮崎県で実施。

参 : これまでの懇談会で出した意見が委員会で報告されていない。個人的には宮崎港築造がこれまでの侵食の原因ではないかと考えていて、港を撤去するのが抜本的な対策になると考えている。他の港を利用する方法もある。

国 : 出された意見は既済の委員会で報告してきている。今回は養浜に関する意見を要約して提示している。

参 : 港は既に宮崎県の経済や住民の生活に組み込まれた重要な施設だから、その議論を持ち出すのはどうかと思うが。

参 : 勉強会でレキの大きさが侵食具合が左右されると聞いた。それは検討に含まれないのか。(砂が粗いほど波にさらわれにくく、その場にとどまるため侵食されにくいのでは。)

参 : 内容を取り違えてるかも知れない。(鹿嶋の写真を示しながら)粗粒分(レキ)は層状に堆積し、細粒分はその上を覆う、という勉強会での内容だったと思う。

参 : 一ツ葉有料道路料金所南側の侵食がひどいが、養浜するなという意見はおかしい。

参 : チリメンジャコの調査はしていないのか。

国 : 現在の調査方法だと捕獲できなかった。今後は幼稚仔調査でやっていく。

参 : 「砂に水を流すと、砂が流れる」という小学生でもわかるような基本的なことがわかっていない。もっと根本的に侵食対策手法を見直してもらいたい。

参 : 国内外の様々な学識者の意見を聞くべきではないか。

参 : もっと長時間をかけて抜本的対策を議論すべきでは。市民側からも委員を推薦できるような枠組みを作ってもらいたい。また海岸の「共通のイメージ」的な資料は事務局が出す類のものではないのでは。

国 : じっくり時間をかけて議論するという意見もあれば、この場にはきてないが、緊急性を唱える方もいる。皆さんの満足がいかない場合もあるかも知れないが、少しでもいい方向に向

かうように努力する。新たな委員を含めるかも今後議論したい。

参 : レストハウスの下の海をみてほしい。台風でも波が有料道路を飛び越すぐらいだ。動物園の拡張計画も潮がかぶるということでストップした。なんとか早く手を打ってほしい。

参 : 昭和40年～50年に青島でも同じ問題が起きた。漁業権があった人たちは漁業補償により発言権も知恵も放棄した。先人の知恵や経験を生かしてほしい。宮崎市ももっと当事者としてがんばってほしい。

高鍋などにも将来の危機(侵食)を呼びかけていくべき。

参 : 青島は潜堤で砂浜の侵食からよみがえった。

参 : もっと行政はしっかりしてほしい。

国 : 法律や技術力、予算など制約があるなかで今までやられてきた工法を参考に、相対的に比較しながら事業内容を検討していく。

参 : 昔の状況や先人の知恵を示す資料をもっと収集して、参考にすべきだ。

- ・米軍の資料を参考にしては。
- ・県立図書館にもそれなりの資料があるはず。
- ・「書籍」として残っていなくても、何らか資料があるのでは。